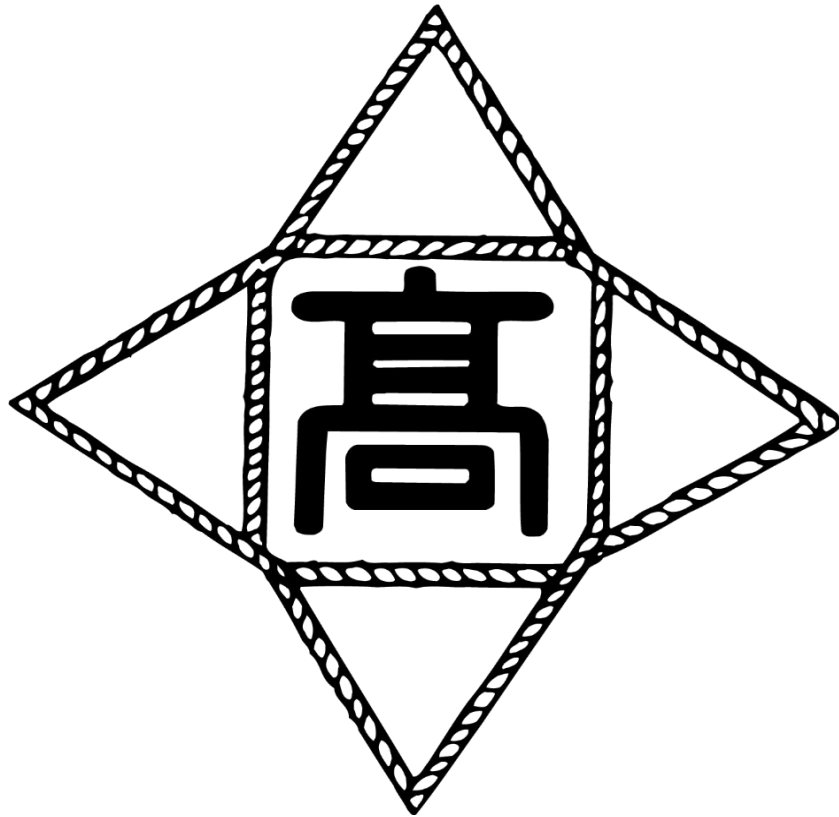


結果のまとめ

令和4年度学校評価

# 『教育活動アンケート』



生徒

保護者

教職員

宮城県石巻商業高等学校

## 令和4年度 アンケート項目別集計結果

選択肢：よく当てはまる 大体当てはまる あまり当てはまらない 当てはまらない

	質 問 項 目	生 徒 肯定票	保護者 肯定票	教職員 肯定票
1	生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている	85.2%	84.4%	100.0%
2	生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている	91.7%	87.7%	70.3%
3	生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導（ガイダンス等）が行われている	89.6%	83.6%	89.2%
4	生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている	91.7%	88.9%	100.0%
5	学校として、部活動は活発に行われている	82.5%	85.2%	56.8%
6	学校として、生徒会活動は活発に行われている	91.7%	90.6%	100.0%
7	生徒にとって、有意義な学校行事がある	85.5%	83.2%	94.6%
8	学校として、専門性を生かし 地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる	88.1%	89.8%	91.9%
9	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている	91.1%	80.7%	97.3%
10	保護者に対して、メールやホームページ、各種学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている	92.3%	88.5%	100.0%
11	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている	79.5%	85.2%	81.1%
12	学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる	85.8%	81.6%	100.0%
13	生徒にとって、学校生活は充実している	86.1%	90.6%	89.2%
14	学校として、校内の環境美化や保健衛生保持に取り組んでいる	91.7%	91.4%	91.9%

## 令和3年度 アンケート項目別集計結果

	質 問 項 目	生 徒 肯定票	保護者 肯定票	教職員 肯定票
1	生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている	77.0%	84.4%	87.2%
2	生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている	87.6%	88.6%	69.2%
3	生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導（ガイダンス等）が行われている	87.6%	80.2%	82.1%
4	生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている	87.9%	89.0%	94.9%
5	学校として、部活動は活発に行われている	83.7%	81.7%	64.1%
6	学校として、生徒会活動は活発に行われている	87.6%	87.5%	92.3%
7	生徒にとって、有意義な学校行事がある	70.3%	71.1%	89.7%
8	学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる	73.4%	79.5%	61.5%
9	生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている	90.2%	81.4%	94.9%
10	保護者に対して、学校便り（メールやホームページ）などによって、学校の情報は適切に伝えられている	86.3%	84.8%	84.6%
11	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている	78.8%	85.2%	82.1%
12	学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる	77.0%	77.2%	89.7%
13	生徒にとって、学校生活は充実している	78.8%	88.2%	82.1%
14	本校と石巻専修大学の高大接続研究事業（大学科目等履修生制度）は自分の将来への期待感がある	56.6%	80.2%	43.6%

## 5 調査内容ごとの分析と改善に向けた取組

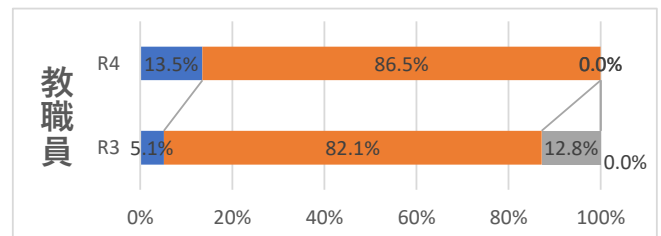
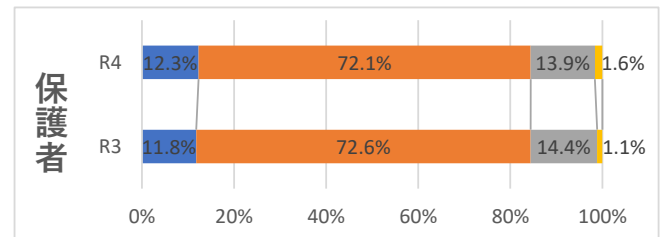
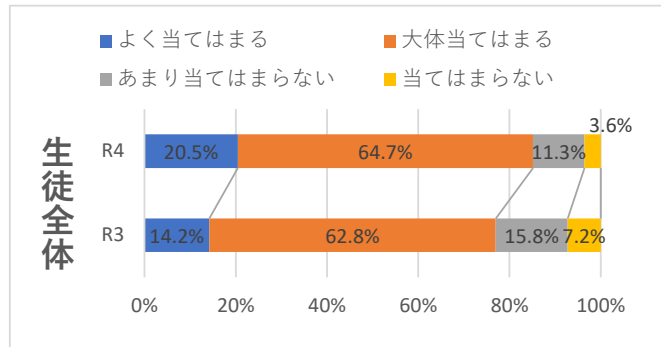
(1)[学習指導]生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている

<調査結果の分析>

生徒の調査では、「よく当てはまる」「大体当てはまる」の肯定的な意見の割合が増加し、この2項目の合計で85.2%と高い評価を得た。次年度入学生から一人1台タブレット端末を持つことを受け、教員のICT活用に関する意識及び技能が高まり、生徒の興味関心を高める授業展開ができるようになってきていることが一因であると考ええる。また、観点別評価の本格的な導入を受け、評価についての意識が教員生徒ともに高まっていることも授業理解度の高まりの一因であると考えている。提出物の回収の状況も良好で、授業理解度の引き上げに貢献していると考えている。

<改善に向けた取り組み>

生徒が授業に意欲的に取り組むようになっている傾向は大変良いことで、今後もこの傾向を維持することが大切である。そのための、教員向けの研修体制の整備が必要と考えている。本校では、教員間での授業公開を行い、それをもとに授業研修を行っている。これらの研修の内容について校内で検討し、より実効性の高い研修としていくことが大切であると考えている。



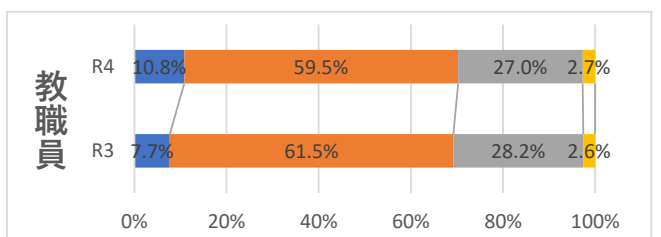
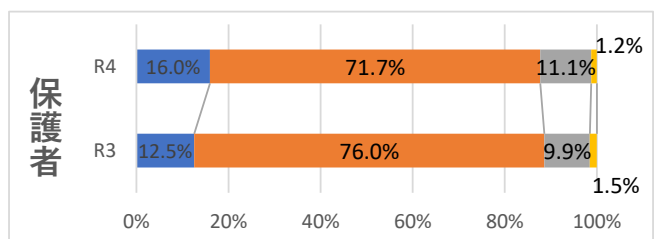
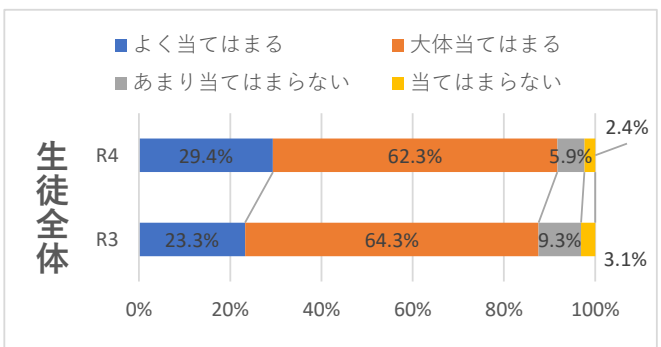
(2)[生徒指導]生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている

<分析>

肯定的回答数が80%を超え、生徒全体では90%を超えた。保護者の「当てはまらない」も少数の声にとどまり、一定の指導成果は出ていると考える。登校時の遅刻指導、教室に入る前の身だしなみ指導、職員室入室時の身だしなみ指導、授業時の制服着用等の日頃の声かけが数字に表れていると考えられる。

<改善に向けた取り組み>

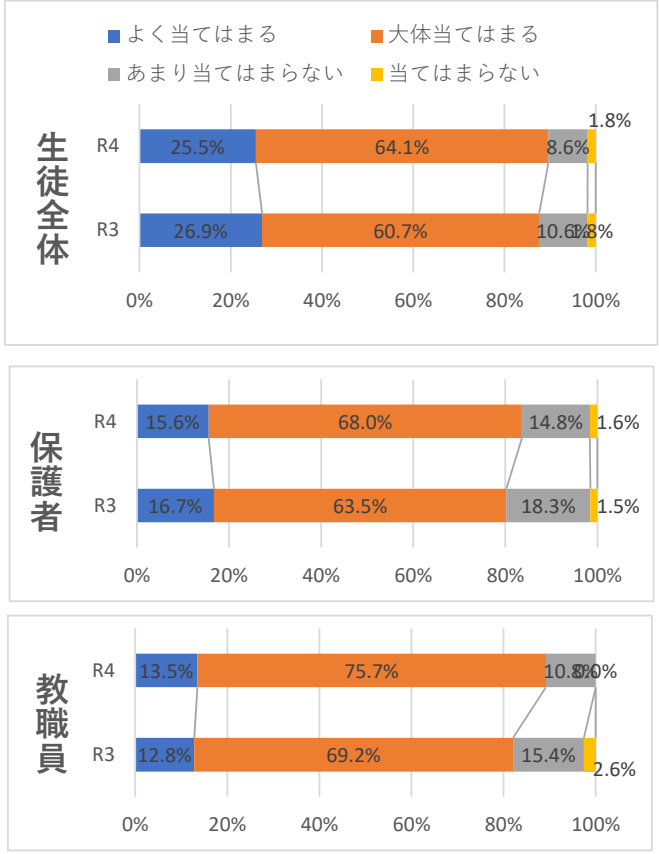
生活習慣の乱れ（遅刻の多い生徒、頭髪服装が乱れている生徒）、学校生活・集団生活におけるマナー違反のある生徒など、一部にさらなる指導が必要な生徒が見られる。また、教員の指導も統一した指導と同時に、個に応じた基本的な生活習慣やマナーについて個別の支援を考慮していくことが今後更に必要と考えられる。



(3)[進路指導]生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導（ガイダンス等）が行われている

<分析>  
 肯定的意見の割合の推移（昨年度→今年度）  
 ・生徒：87.6% → 89.6%  
 ・保護者：80.2% → 83.6%  
 ・教職員：82.0% → 89.2%  
 様々な進路行事等を通して、進路に対する明確な目的を持ち、将来の職業や生き方について考え、その具体化に向けて、前向きに取り組もうとする姿勢を期待している。生徒の肯定的な意見の割合は、進路行事等が自分自身の進路を現実的に考えることができているという表れではないかと捉える。

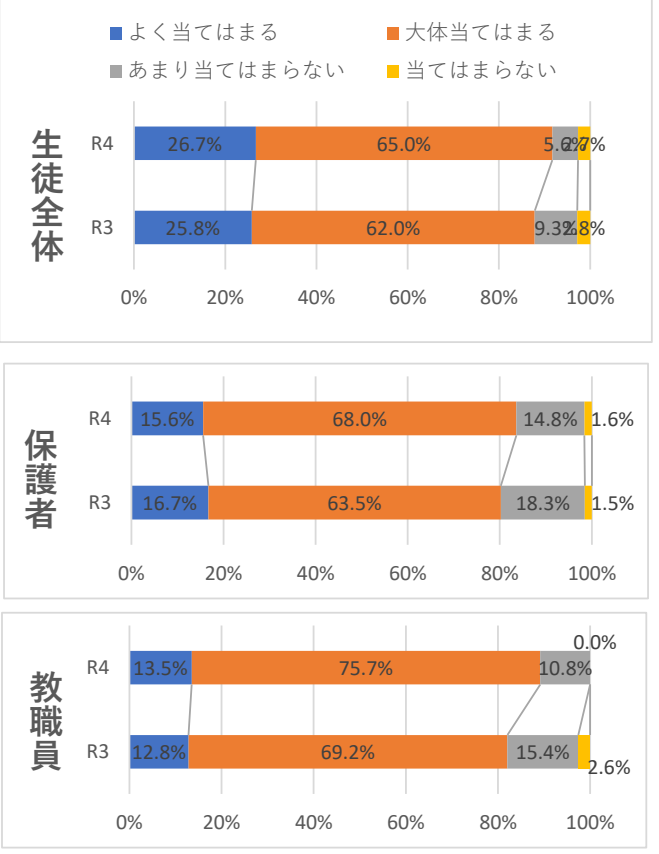
<改善に向けた取り組み>  
 自分ができること、意義を感じることを、したいことについての「自己理解」を深め、日頃から進路に関心を持ち行動させるキャリア・パスポートを充実させたい。また、進路が明確化せず、何をしても良いかわからない生徒や保護者に対して日常的な進路相談に応じられるような体制作りが必要ではないかと考える。



(4)[教育相談]生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている

<分析>  
 ・生徒、保護者、教職員ともに肯定的な回答（80%超）が確認できた。また、少ない割合ではあるが、保護者、教職員における否定的な回答が生徒よりも多く、特に保護者は生徒の約2倍となっている。  
 ・SCの活用については、クラス担任、保健室を中心に、カウンセリングにつなげたい生徒を確実につなぐなど、積極的な活用を通して支援に結びつけられた。このことが評価として示されたのではないかと。

<改善に向けた取り組み>  
 ◇こころの健康チェックについて  
 ・有効な手段、方法を様々な角度から検討し、効果的な活用方法を探る。  
 ◇SCの活用について  
 ・カウンセリングについて、1日分の予定が全て予約済みとなる日もあり、放課後の予約まで受け付けるなどして対応したが、柔軟な対応に苦慮する状況も見受けられた。担任との連絡調整も含め、多くの生徒、教員がカウンセリングを利用しやすい（利用できる）環境整備が必要不可欠である。  
 ・校務支援システムの効果的な活用や保護者に対する情報提供の工夫、改善を図る。

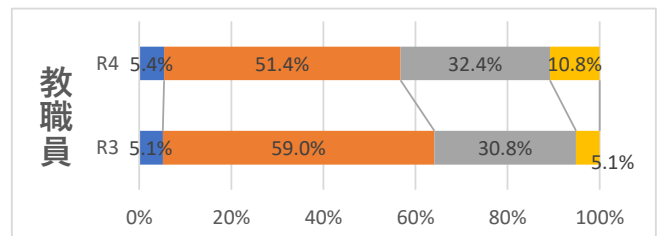
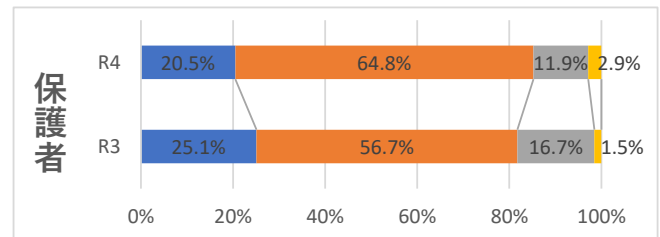
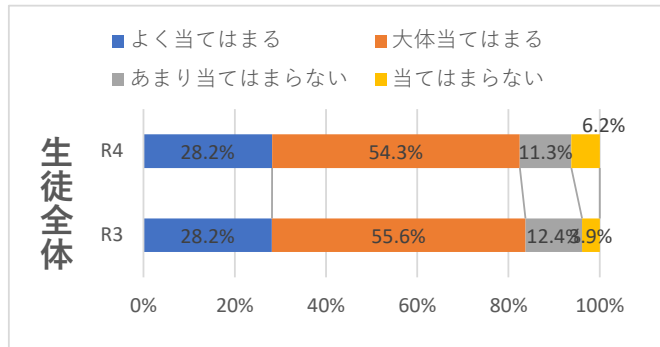


(5)[部活動]学校として、部活動は活発に行われている

<分析> 生徒・保護者で肯定的な意見が80%を超えることから、複数の部においては活動が活発に行われている。「当てはまらない」が生徒全体では微減であるが、保護者・教員ではほぼ倍増であることから活動状況は芳しくない部があるのも事実である。新型コロナウイルス感染症の影響から、中学校から継続して活動する場面が減らされたことや、少子化の影響から競技人口の減少と中学校での部の存続が出来ない状況などもあいまって、石巻地区の部活動衰退の波が石商でも現れている。その中でも東北大会や全国大会に進出する競技もあることは嬉しいことであった。文化部も吹奏楽の校外の活動があったり、他の部から文化祭での発表ができたりと、地道な活動は継続的に行われている。

<改善に向けた取り組み>

来年度に向けて部活動の統廃合を行い、クラス減の中でも活発に活動できる環境作りに取り組む。運動部と文化部を一つずつ減らしつつ生徒を集約し、顧問配置の問題も改善しながら活発化を期待する。



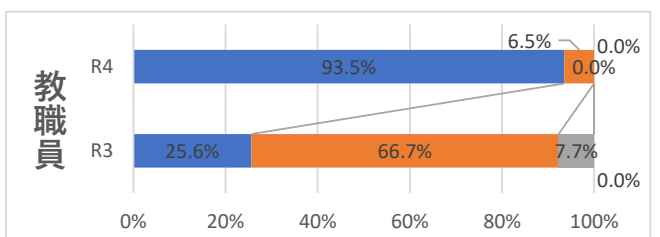
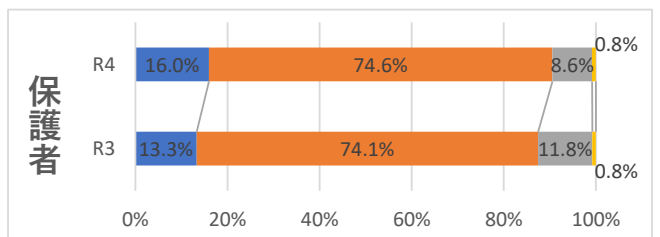
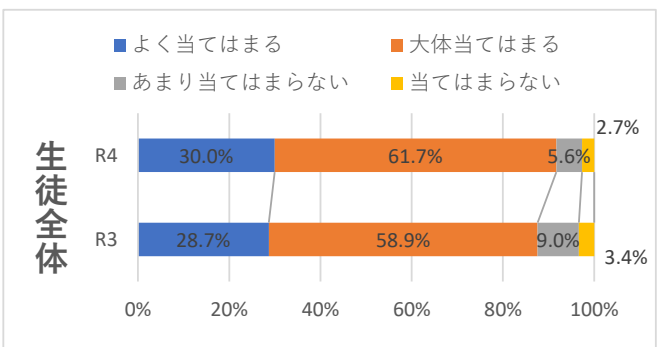
(6)[生徒会活動]学校として、生徒会活動は活発に行われている

<分析>

肯定的回答が生徒・保護者において90%に達しており、昨年と比較して上昇している。教職員においては「よく当てはまる」の項目が90%を超えており、大幅な上昇が見られた。体育祭や石商祭などの行事のサポートや生徒会執行部が独自で企画する『独自企画』に積極的に取り組むことで、肯定的回答の上昇の一助となったと考えられる。『独自企画』では、石商祭での「振り返り動画」を作成し、終盤で上映したことで生徒たちが達成感を感じながら石商祭を振り返っていた。また、「朝の挨拶運動」や各クラスの教室美化を目的とした「年末の大掃除企画」を実施するなど、多くの活動に取り組み、生徒の意識向上に努めてきた。

<改善に向けた取り組み>

今後の課題として、委員会活動の活性化が考えられる。そのため、『独自企画』等で各委員会に業務を依頼し、協力しながら活動するよう努めている。またボランティア活動などを実施し、地域との関わりを増やしていくことも視野に入れていきたい。

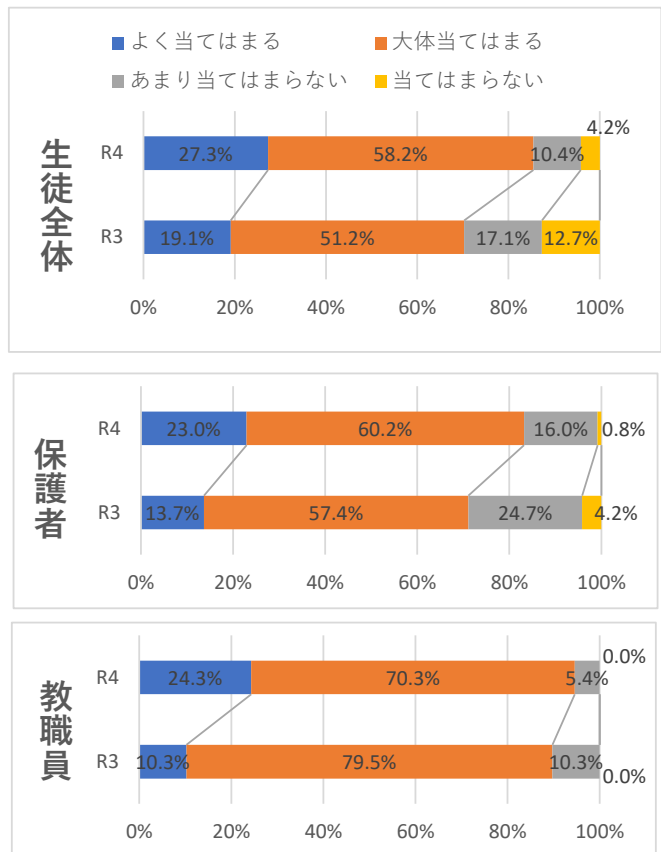


(7)[学校行事]生徒にとって、有意義な学校行事がある

<分析>  
 肯定的意見の推移 (R3年度→R4年度)  
 ・生徒：70.3% → 85.5%  
 ・保護者：71.1% → 83.2%  
 ・教職員：89.7% → 94.6%

今年度は昨年度に比べ、肯定的な意見の割合が大きく上昇した。この結果は、コロナ禍ではあるが、3年振りに全校生徒による学校行事が再開されるようになったことが要因と考えられる。補足としてこの資料からは数値は見えないが、学年別では、昨年度に修学旅行が中止となった3学年の生徒の約10%が「当てはまらない」との否定的な意見であり、学校行事における修学旅行の重要性が肯定的な意見に大きく関係していると推測できる。

<改善に向けた取り組み>  
 コロナの感染状況を踏まえながら、生徒自らが主体的に活動できる環境を整え、生徒の思い出に残る行事を可能な限り実施していけるよう努めていく。



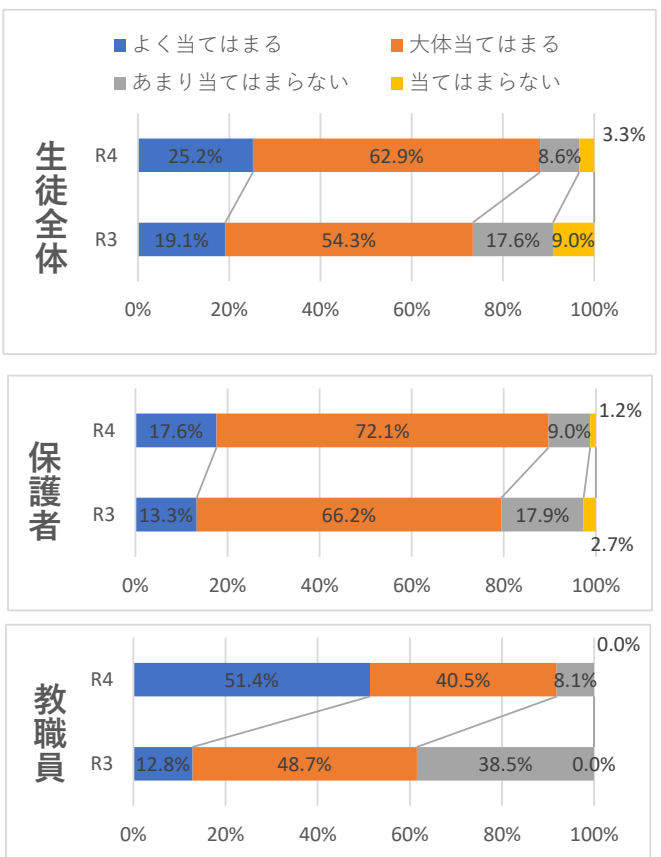
(8)[特色ある学校づくり]学校として、専門性を生かし 地域や伝統などに

<分析>  
 肯定的意見の割合の推移 (昨年度→今年度)  
 ・生徒：73.4% → 88.1%  
 ・保護者：79.5% → 89.7%  
 ・教職員：61.5% → 91.9%

生徒、保護者、教職員いずれも専門性を生かした特色ある学校づくりが行われていると捉えている。

要因としては高大接続研究事業の資格取得への取組や地元企業との販売実践、商品開発など産学協働の教育活動によるものであると考えられる。さらに今年度は活動が充実し、生徒の活躍や成長の場が多く設けられたことが良好な結果に繋がっている。

<改善に向けた取り組み>  
 一過性のものでなく持続可能な教育活動にできるような目的を明確化し、5年先、10年先を見据えた指導計画を作成する。

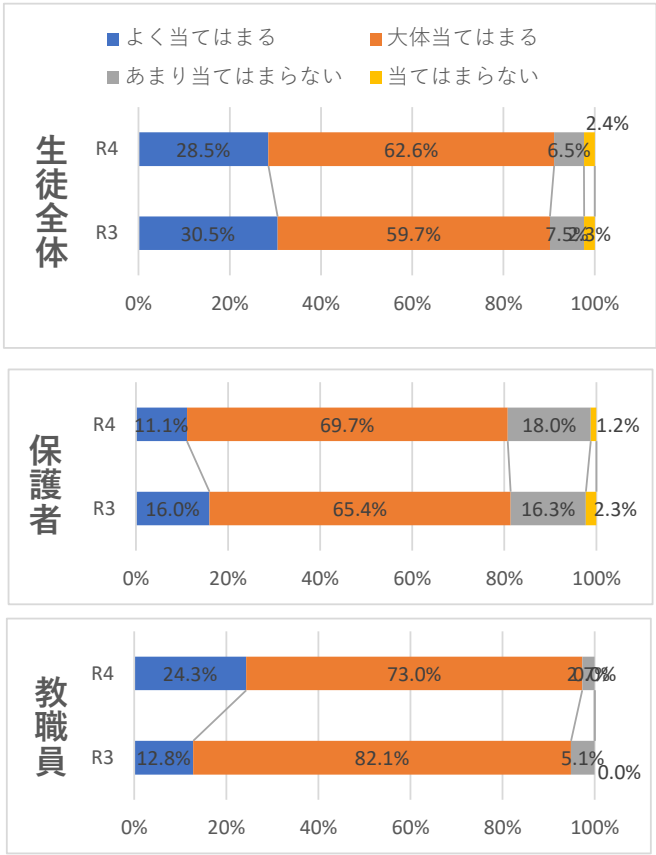


(9)[防災教育]災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている

〈分析〉  
 肯定的意見の割合の推移（昨年度→今年度）  
 ・生徒 90.2% → 91.1%  
 ・保護者 81.4% → 80.8%  
 ・教職員 90.9% → 97.3%

生徒・保護者とも前年度（令和3年度）とほぼ同じ結果で、「よく当てはまる」「大体当てはまる」あわせて生徒は約90%、保護者は約80%が占める結果であった。教職員については、前年度より「よく当てはまる」が10%以上増えた。新型コロナウイルス感染症防止対策の関係で、防災行事が規模を縮小していることも若干は関係しているが、情報の提供や啓蒙・啓発の不十分さが要因で、3グループとも「よく当てはまる」が少ないことが課題である。

〈改善に向けた取り組み〉  
 次年度改善案として、生徒へは簡易版防災リーフレットを配布し、保護者へは学校HP等を活用して周知させていきたい考えている。また職員へは防災訓練行事や校内研修会をとおして細部にわたり周知徹底させていきたいと考えている。

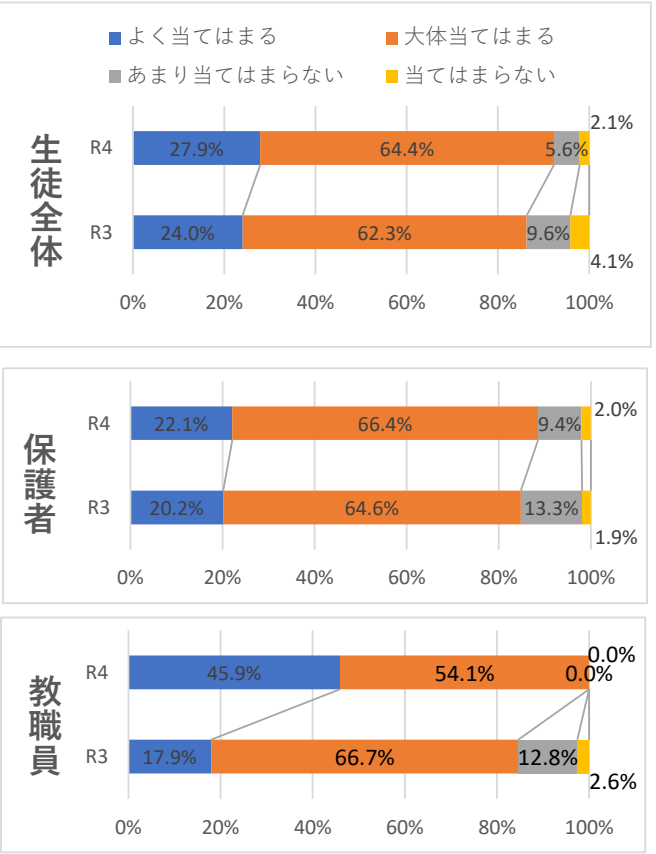


(10)[開かれた学校づくり]保護者に対して、メールやホームページ、各種学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている

〈分析〉  
 肯定的意見の推移（R3年度→R4年度）  
 ・生徒：86.3% → 92.3%  
 ・保護者：84.8% → 88.5%  
 ・教職員：84.6% → 100.0%

生徒・保護者・教職員とも、肯定的な数値の増加が見られた。特に生徒は90%超、教職員については100%が、本校の「開かれた学校づくり」について肯定的に捉えている。要因としては、学校ホームページの更新頻度の上昇や、一斉メールによる積極的な情報発信、各種マスコミ等活用した情報発信などが実を結んだと考えられる。また、教職員の肯定的数値が大幅に増加したことについては、ホームページ更新の方法を全職員が参画する形式に移行したことなどが要因の一つと考えられる。

〈改善に向けた取り組み〉  
 学校便りについては、生徒だけではなく保護者にも確実に渡るよう、三者面談での配付や、一斉メールを活用した配付通知を行っていききたい。また、学校ホームページの更新についても、ホームルームでの定期的な呼びかけや、一斉メールを活用し、本校の情報発信が生徒や保護者に確実に届くように工夫をしていきたい。

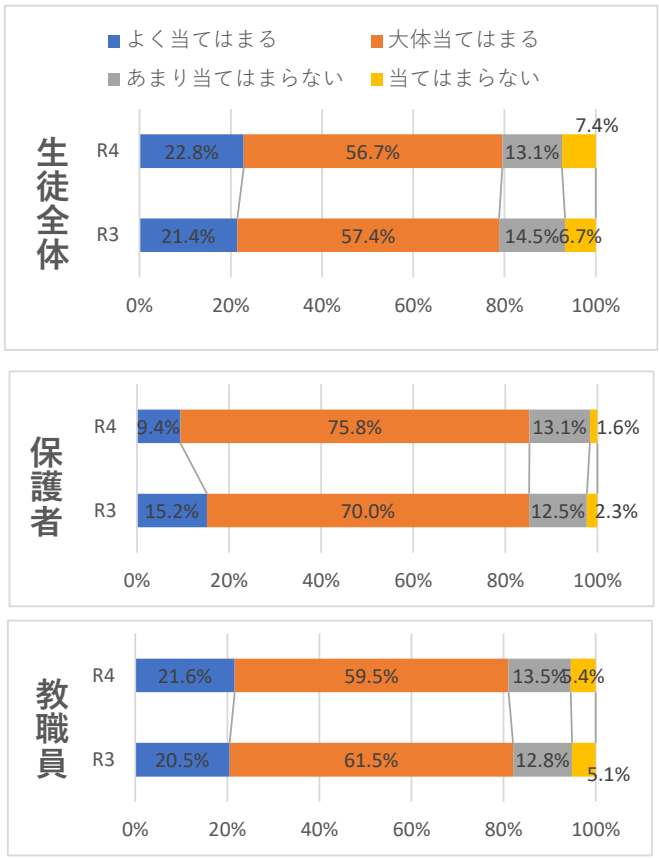


(11)[施設設備]校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

<分析>  
 肯定的意見の推移 (R3年度→R4年度)  
 ・生徒：78.8% → 79.5%  
 ・保護者：85.2% → 82.5%  
 ・教職員：82.1% → 81.1%

肯定的な数値は多少の変動はあったが、生徒、保護者、教職員ともに昨年度と大きな変化は見られなかった。しかしながら約8割の肯定的な意見をいただいていることから、校内の施設設備は概ね良好といえる。

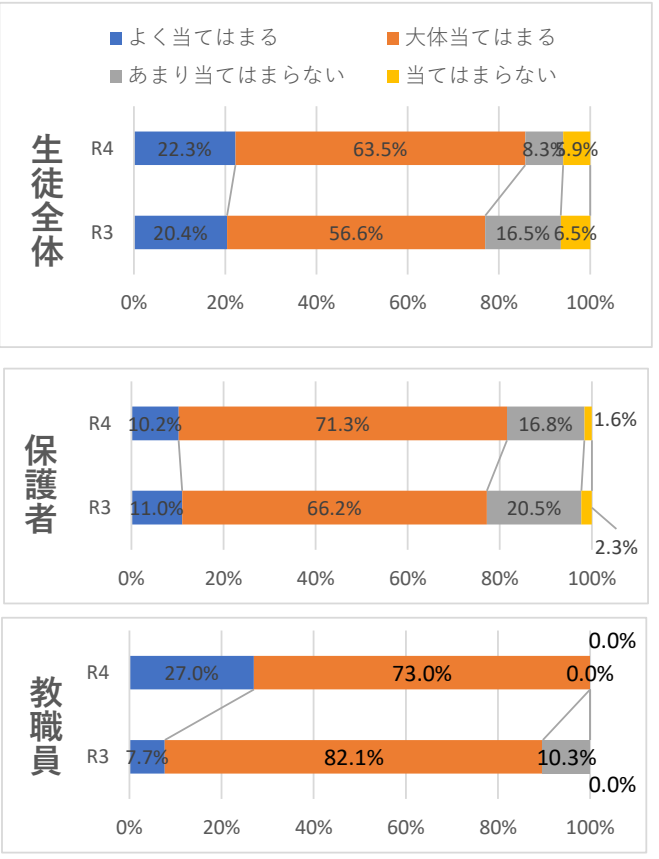
<改善に向けた取り組み>  
 校舎の老朽化やその他の施設設備に関しては、安全性を保ちつつ、生徒の学習環境に大きな障が出ないように各施設担当者と連携をとりながら、今後も環境整備を進めていく。



(12)[いじめ問題]学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる

<分析>  
 保護者・生徒の「当てはまらない」が減少していることから、取り組みの成果は上がっていると考えられる。保護者・生徒の「よく当てはまる」「大体当てはまる」が10%増加の結果を見ると学校での取り組みが認められている場面が増えたと考える。今年度、生徒の申し出からいじめ発覚のケースがあったが、教員の協力体制をもって生徒・保護者へ対応し、大事にまで発展せずに対処することができた。また、いじめアンケートに記載のあった注意を要する案件にも迅速に対応し、問題解決に努める体制を維持することができた。このような活動が数値の向上につながったと考える。

<改善に向けた取り組み>  
 今後も早期発見・早期対応が行えるように、生徒の観察と定期的なアンケート等を通じて支援していく。校務分掌の統合案に伴い、保健衛生と生徒指導・生徒支援の観点から更に充実した相談体制を考えていきたい。



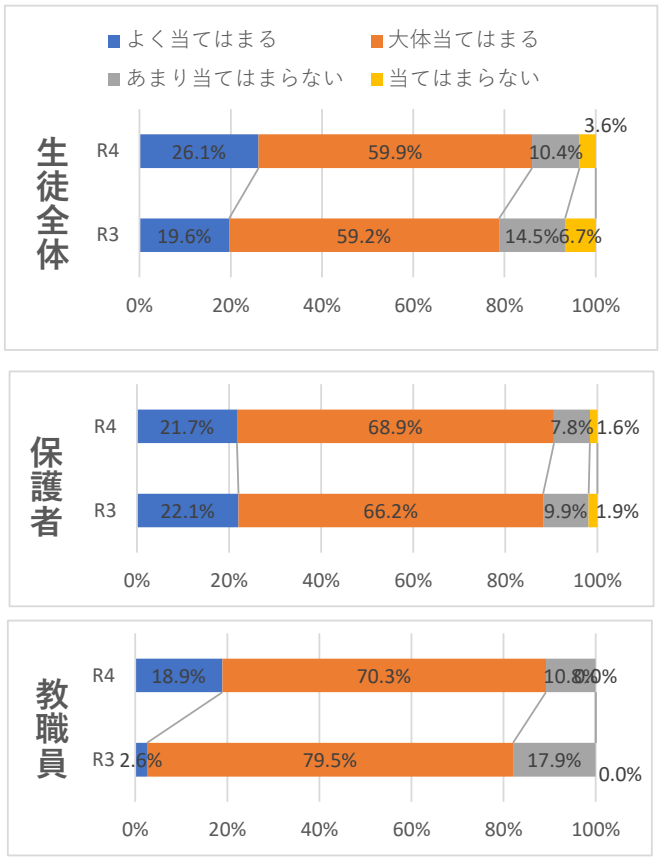


(13)[総合満足度]生徒にとって、学校生活は充実している

<分析>  
 肯定的意見の推移 (R3年度→R4年度)  
 ・生徒：78.8% → 86.1%  
 ・保護者：88.2% → 90.6%  
 ・教職員：82.1% → 89.2%

肯定的評価はいずれも昨年度より高い評価をいただいた。コロナ禍も3年が経過し、今年度は昨年度に比べ、行事や集会など生徒の行動制限の緩和に伴い、学校生活の充実を感じる機会が増加した結果であると考えられる。

<改善に向けた取り組み>  
 今後もコロナの感染状況に鑑みながら、行事等だけでなく、普段の生活や学習活動においても生徒が主体的に取り組む、自己有用感が持てる学校生活が送れるよう努めていく。



(14)[保健衛生]学校として、校内の環境美化や保健衛生保持に取り組んでいる

<分析>  
 ・いずれも否定的な回答が10%未満であり、概ね良好な回答が確認できた。毎日の継続した清掃・消毒や長期休業前後の環境美化等を実施している効果が、構内の環境美化・衛生保持の結果に結びついたと思われる。  
 ・教職員の指導・監督の下、生徒たちも年間を通して清掃・消毒活動に取り組んでいた。

<改善に向けた取り組み>  
 ・保健委員の更なる活用を図ると共に、消毒作業等の感染対策を再確認して徹底をすることで、今後も校内の環境美化、保健衛生保持に務めていきたい。

